

# 玉垂

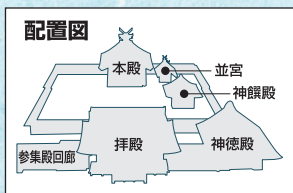
たまだれ  
No.3



御社殿全景

## 小國神社のご祭神

小國神社のご祭神は大己貴命様です。大己貴命は大国主命のことであり、皆様ご存じの神話「因幡の白うさぎ」で、赤裸のうさぎを助けられた心やさしい神様です。一般には「大国様」と呼ばれ親しまれています。大己貴命は「古事記」「日本書紀」をみますと他にも多くの神名が伝えられています。豊葦原の国（日本の国）を稲穂がたくさん稔る豊かな国に造り上げ、天孫に国をお譲りした神様として国作之大神・大穴牟遲神といわれています。また農業・山林・鉱業・縁結び・医薬の開発・禁圧の法（鳥や害虫から作物を守る方法）を授けた神様として大物主神・宇都志国玉神・大国玉神といわれ、国中の悪い神様を追い出して平和な国に治められた神様として葦原醜男命・八千矛命と称えられています。このように多くの神名をもつということはそれだけ偉大で尊く、ご神徳が極めて高い神様であることを物語っています。開拓の神様大己貴命は、国づくり・村づくりの神様として各地に祀られています。また、全国の「一の宮」にもご祭神とする神社が多いのは、このような信仰的背景があったからです。小國神社では、欽明天皇の御代十六年（五五五）の二月十八日に本宮山（現在の里宮より約六キロメートル北）にご神霊が降りられたと伝えられています。本宮山は、流れ出た水によって耕作する農民や海に生きる人々にとっては、生活の安定をもたらしてくる尊い神様と認識され、遠江國（県西部地方）の中でも最も身近で大切な神様として厚い信仰がよせられたのです。今日、このように信仰の寄りどころとして、また国土の豊穡神・国の守護神として崇敬されています。



# 特別寄稿

## 小國神社の橘と蜜柑



竹田 康治

去る橘月十八日、タチバナとキシユウミカンの両種の植え付けに奉仕させて頂きました。さらに本紙への寄稿を依頼されましたので、両種の由来と、県下の歴史的経過の概要を主体に、話題を提供したいと想います。

### タチバナとミカンの由来

1. タチバナ  
**【栽植樹の由来】** 昭和二十一年の秋、貞明皇后が静岡県柑橘試験場(清水市)へ行啓のおり、タチバナを御手植えになりました。そのとき私は同所で学習中の身でした。その後、度々職場が変わりましたが、定年退職辞令を受けたのも同所でした。そしてこの度「貞明皇后御手植えのタチバナ」を母樹として苗木を育成し、植えつけに奉仕することになり、奇縁を感じています。本殿西側の玉垣内に植えられた二本のタチバナのうち、南側の木は平成八年春に「御手植えのタチバナ」一果を譲り受けて播種、育成したものです。十年程たてば実を着けましょう。北側の木は十二年春にカラタチ白に接ぎ木育成したもので、三・四年後には初成りの果実が神

前に御供えできるでしょう。

**【タチバナの概要】** 神代の「筑紫の日向の橘の小戸の櫛原...」。田道間守(タジマモリ)が常世の国から持ち帰った「非時香菓(トキジタノカケノクノミ)」。京都紫宸殿の左近の桜と右近の橘。万葉人の詠んだ花橘など広く知られ、地名・姓・植物名などと共に、各種文様に意匠化されて日本人の心の中に根付いて来ました。昭和天皇が文化勲章を制定されたとき、御自身でタチバナに決められたとのことです。

タチバナは我が国に原産した唯一の柑橘です。静岡県伊豆半島を北限とし、沖繩にかけて分布しています。古い時代には各地に見られましたが、今は絶滅危惧種(レッド)に指定されています。

近年は遺伝子の研究から、「コウジ」(柑子)・(森町指定天然記念物がある)はタチバナの血を引く雑種であることが確認され、「新姫」(ニイヒメ)が種苗登録されています。古い時代は柑橘類の総称として「橘」が当てられ、やがてコウジの時代に移りました。

タチバナの県下の初出は、『記・紀』が述べる、皇極三年(六四四)七月、富士川辺りで起きた常世虫事件。『延喜式』には延長五年(九二七)に、薬用として駿河国から橘子が貢進されています。後に遠江国からも橘子が貢進され、後、伊氏の始祖の誕生、如仲天間禅師の森町大洞院の開創にも、端祥として橘が登場しています。

タチバナの古木は、磐田市の神主家であった大場氏方に昭和四十三年頃まで生存していました。この木を明治十

九年に描いた一幅の「橘之図」にその姿を留めています。細江町の神主家であった沢木氏方の屋敷には、根元の幹回り一メートル以上もある古木が現存します。

### 2. キシユウミカン

**【栽植樹の由来】** 静岡県駿府公園本丸跡に現存する「家康公お手植えの蜜柑」を母樹として、平成十二年秋、「静岡葵博」記念行事に育成された接ぎ木一年生の苗木が、県内の学校・施設に配布されました。そのとき、小國神社は家康ゆかりの故をもって特に配布がありました。この木がタチバナと同じ日に東の駐車場に接して植えられました。

**【キシユウミカンの概要】** 原産地は中国、わが国へ入った年代は明らかではありません。



定植式(平成13年5月18日)

経済栽培が始まったのは江戸時代以降のこと。紀州産のミカンが広く知られ、産地の名を冠して紀州ミカンと呼ばれていたが、これが後に「キシユウミカン(紀州蜜柑)」の名になりました。元の名は「蜜柑」(ミカン・ミツカン)です。明治中頃からウンシユウミカンが普及し、これと区別するため本ミカン・小ミカンなどと呼ばれる、今も古老から聞くことがあります。

**【県下のキシユウミカン】** 弘治二年(一五五六)駿河に滞在の公家山科言繼の日記に、蜜柑の名が出てきます。天正十年(一五八二)家康が勢州の北畠中将信雄に、駿州名物として蜜柑を贈り、寛永頃から(一六二五)ミカン苗木の育成、栽植、産出など記録が多く見えます。元禄時代には全国名産に白羽コウジや浜松ミカンの名も見え、浜名湖周辺もミカン栽培が増しました。家康が駿府城内にミカンを植えてから三百年、種無しは子孫が絶えるという縁起も終息し、やがて種子の無い、食べやすいウンシユウミカンの時代になりました。しかし、紀州ミカンは寿命が長く、清水市地域ではミカンの御神木を定めて手厚く管理し、今日に至っています。

小國神社にタチバナの馥郁たる香りが流れ、百年、二百年と年を経て大樹に成長することを願い、この機会をお与え下さいました関係の皆様へ御礼申しあげると共に、氏子・崇敬者皆々様の弥栄を心からお祈り申しあげます。

(細江町文化財保護審議会委員  
 とひ浜松農産園芸センター技術顧問)

### 敬神婦人会研修旅行

会長 小池まさ子



伊佐須美神社参拝

記録破りの猛暑の中、去る七月十六・十七日、伊佐須美神社参拝と大内宿・会津への旅を実施致しました。栃木を経て福島入りの長旅でしたが、体調を崩される会員もなく快適な道中でした。

毎年行われる敬神婦人会研修旅行は、由緒ある社寺の参拝が出来ることが楽しみで、参加者にとって心の拠り所をいただけるということで好評です。本年は、打田宮司様のお計らいで、会津総鎮守・岩代一の宮の伊佐須美神社へ正式参拝を致しました。轡田



芦の牧温泉にて懇親会

勝映宮司様の意義深いお話に、心身共に活力を得た思いがし、運を強くするお徳をもつお守りをいただき家運隆盛を祈りました。情緒ある宿場町の大内宿の散策は時間が足りない程でした。また、日本最長のもみじ谷大吊橋を緑風に吹かれて渡った醍醐味、千二百年の伝統をもつ秘湯芦の牧温泉の見事な企画に旅の疲れも癒されました。

翌日は、会津若松の鶴ヶ城を見学し、白虎隊に思いを馳せ、遠くより飯盛山を仰ぎました。心に残る意義深い研修旅行に、明日への活力を得た思いがしています。ご参加の会員のご協力に心から感謝申し上げます。

### 振興会―境内清掃奉仕―



境内清掃奉仕後のひととき

去る七月十日、振興会の奉仕事業として境内の清掃作業を行いました。今回が初めての実施でしたが、岩瀬静夫会長をはじめ十三名の役員の皆様のご参加を戴き、午前九時から三時間程ご奉仕下さいました。事待池に注ぐ水路や宮川の枯れ葉ゴミの片付け、紅葉・梅・さざんかの枝に掛っている枯れ枝や枯れ葉の整理、紅葉遊歩道の清掃など、皆様方境内の各所に分散して実施して戴きました。

日頃目に届かない場所の清掃作業で暑い中大変でしたが、綺麗に整いました。終了後は、ご参加の皆様から酒肴の差し入れを戴き、納涼の会を催し、一日の労をねぎらいました。

### 氏子青年会全国大会参加



氏青協全国大会レセプション

八月四日、第三十九回全国氏子青年協議会定期大会が京都市にて開催され、当社会員から十四名が参加しました。

総会及び大会において事業活動の報告がなされ、引き続き伏見工業高校ラグビー部山口良治総監督の記念講演を拝聴しました。レセプションでは、和やかに各地の会員との交友を深めました。全国氏青協役員並びに京都府青年会の皆様のご尽力により、盛大な活気溢れる大会でした。

翌日は賀茂別雷神神社に正式参拝をし、御多忙の中、建内光儀宮司様をはじめ職員の皆様には手厚いもてなしを受けました。参拝後には宮司様より貴重なお話を伺い、各会員改めて氏子青年としての使命を確認できましたことと思えます。

この大会を通じ、会員ひとりひとりが更に自覚を持ち、会が益々発展しますことを願います。

## 宮川清流の川遊び

アブラゼミの大合唱も盛んな夏本番を迎えると、境内を流れる宮川には、心地好いせせらぎの中の涼をもとめ、家族連れや子供達のくつろぐ姿が多くみられるようになります。

社務所横の禊場みそぎばは、水が堰止められプールの様になっているので、子供達の歓声がこだまする人気の場所です。小魚やアメンボ、ヤゴ、カワニナ等、子供の視点は発見の連続です。時折、タヌキやノウサギもひょっこり顔をのぞかせます。また、これより上流の宮奥へ行くと、モリア



宮川での川遊び



オガエルやカワセミに出会うこともあります。ヒグラシがカナカナと鳴き出すと、夕暮れ時を感じさせてくれます。

## 参集殿お手洗

### 水洗化工事終了

境内整備事業の一環として、衛生的に施設を利用して戴くため、平成三年の門前お手洗の水洗化工事に引き続き参集殿お手洗水洗化工事が川崎設備工業(株)施工により無事終了しました。

施工計画に、合併浄化槽にて汚水を浄化のうえ抜橋下流へ排水すること、掘削工事には立木への影響を考慮し樹木医立合いのうえ作業を行うことの二点を盛り込みました。

着工後は梅雨とは名ばかりの晴天が続いたおかげで、工事は順調に進捗し、当初の予定通り八月初旬には、本工事全て完工の運びとなりました。



合併浄化槽の埋設

## 古代の森シリーズ③

### 本宮山 奥磐戸神社

御本社より森町薄場地区を通り車で約二十分程で本宮山への登山口に到着します。登山道の急坂を約二十分歩くと庁屋があり、さらに五分で山頂(五二一m)につきます。山頂には小國神社のご祭神の荒魂あらいたまをお祀りする奥磐戸神社が鎮斎されています。本宮山からは遠州地方が一望でき、晴れた日には浜松のアクトタワーも見えます。日々の暮らしの中で、里に生きる人々は水の恵によって土地を耕し、海に生きる人々は本宮山を「当て山」として深い信仰がもたれました。

古来より参拝者が絶えることなく、特に一月六日の例祭また五月六日の青葉祭には、多くの人がお参りになります。



奥磐戸神社社殿



# まつり歳時記

八月〜十月

## 八月

葉月はづき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十九日 甲子祭 (午前九時)

## 九月

長月ながつき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十三日 秋季皇霊祭遙拝式 (午前九時)
- 二十五日 御柱祭 (午前十時)
- 二十五日 敬老祭安心祭 (午前十時)

## 十月

神無月かんなづき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 六日 白鬚神社例祭 (午後二時)
- 十七日 神嘗祭当日祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭 (午前十時)
- 十八日 福神像頒布式 (午前十時)
- 二十八日 甲子祭 (午前九時)



むくげ

木槿(むくげ)

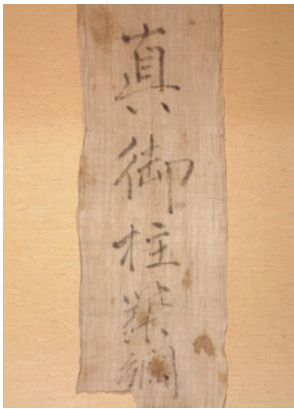
〔アオイ科フヨウ属 落葉低木〕  
 七〜九月に径五〜十cmの花をつけ、多くは朝開いて夜しほみ、淡紅・白・淡紫色などがあります。ハチス・モクゲ・ユウカゲグサとも呼ばれ、一説に、古くアサガオと称したのは、ムクゲの花のことだともいわれます。花言葉は信仰・信念。宮ノ谷池や記念館横駐車場等で観賞できます。



ユウスゲ

### 御柱祭・敬老祭安心祭

九月二十五日午前十時より御柱祭が斎行されます。明治十五年三月八日、大火により御本殿以下社殿の大半を失いました。一日も早い復興の呼びかけに対し、氏子地区をはじめ各地の崇敬者の熱意と努力により明治十八年五月に着工、翌十九年六月に竣工しました。同年九月二十五日に遷座祭を斎行し、この日を記念するのが御柱祭です。また、九月十五日が敬老の日ですが御柱祭に併せて、敬老祭安心祭が行われます。氏子内のお年寄りの皆様をご招待し、金幣拝授した後、お守り・お供物・幸福の箸が授与され、直会にてお楽しみいただきます。



明治十八年、御本殿の「心御柱(しんのみはしら)」を立てる時の引き綱に付けられた布。(神社蔵)

### 末社・白鬚神社(例祭)

中世、神社周辺は一之宮五か郷(上の郷・下の郷・天宮の郷・太田の郷・円田の郷)から成り立っていました。なかでも円田郷は南に開け、太田川の水源に支えられた豊かな水田地帯であります。小國神社の鎮祭にも大きくかかわった重要な歴史的地域です。また、この円田郷栗倉村は、小國神社に参向した勅使が宿をとった地であり、そこに白鬚神社は鎮座しています。ご祭神は、小國の神を現在の地に導いた猿田彦命をお祀りしています。ご例祭は、十月上旬の土曜日に斎行され、祭典は小國神社宮司がご奉仕し、諸準備は円田地区の方々が行っています。



末社・白鬚神社

# 神嘗祭当日祭

十月十七日、伊勢の神宮で神嘗祭が斎行されます。神嘗祭は神宮にとってご鎮座以来の沿革をもち、垂仁朝に倭姫命が大宮処を求めて巡幸した折、真名鶴の昨えた八握穂を、御籾として供えた伝承に遡ります。内宮のご祭神・天照皇大神に初穂を捧げる祭儀であり、大神様のご神徳によって無事に収穫できた感謝の気持ちをお伝えするものです。神宮においては、年間の祭儀の中で最も重要な祭儀と位置づけられており、いわば神宮の年中諸祭は神嘗祭に集約するよう構成されています。この神嘗祭のとり行われる日に、全国の神社では「神嘗祭当日祭」が斎行され、神宮を遙拝します。



神宮

# 福神像頒布式

十月十八日の月次祭に併せて福神像頒布式を斎行します。当日は、お世話の皆様が代表で参列し、神札を受け、その後各家庭に頒布します。福神像は、福徳円満の神である恵比寿・大国の絵像を二枚一組としてお祀りします。神札は古来よりの手法で削り墨と刷毛と馬連を用い、七月初旬より神社内にて神職が二二〇〇体程刷ります。頒布先は主に氏子地区ですが、袋井市・春野町・豊岡村など近郊の市町村にも及びます。



福神像神札

# 十二段舞楽衣装の「虫干し」実施

土用の七月二十八日、十二段舞楽に使われる舞楽衣装の「虫干し」が行われました。例年この時期に実施し、衣装方の小林隆さん、大塚静雄さんにご奉仕いただきました。小林さんから、「天候をよく判断しながら干します。汚れ等に注意して、ほころびがあれば直します。来年のために重要な仕事です。」とお話を伺いました。一日虫干しされた衣装は、防虫剤を加え、舞の演目別に衣装箆筒に入れられ、来年の例祭迄保管されます。衣装方は裏方の仕事が目主となりますが、舞楽伝承を担う大切な仕事です。



舞楽衣装虫干し

# 「茶そば」販売開始

門前にある小國神社指定売店では、七月二十六日から「茶そば」がメニューに加わりました。お茶の産地森町にふさわしい自慢の門前そばです。この茶そばは、当社の崇敬者であります池島・フーズ(株)(池島義幸社長)の謹製品で、発売以来好評です。実際、口にしてみますと茶の香りが程よく、噛むごとに香りが増していきます。腰が強くのどごしも良いなかなかの逸品です。参拝後、土産にされる方が増えていきます。因みに、茶そばは一盛六〇〇円、土産用一袋二五〇円にて販売しております。ぜひお召し上がりください。また、氏子地区で採れる次郎柿を原料にした「柿ワイン」の販売予約も受付中です。詳しくは指定売店へご連絡ください。(電話/〇五三八一八九一七八四四)



「小國の杜・点描」―夏―

山百合(やまゆり)

ユリ科ユリ属 多年草

ユリは世界中で約百種、日本では十五種が知られ、わが国は観賞価値の高いユリが多く、ユリの宝庫とも呼ばれています。ヤマユリは日本特産種で丈は一・五mほどになり、七、八月に強い芳香のある径十、二十cmの大輪の花をつけます。花言葉は純潔。記念館付近や大宝殿南斜面などにみられます。



山百合

百日紅(さるすべり)

ミソハギ科サルスベリ属 落葉高木

樹肌はなめらかで、七、九月に紅紫、白色などの花が開き、花期が長いので百日紅ともいわれます。日当たりと水はけの良いところを好み、夏の青空に映える姿は雄弁という花言葉もなげます。



百日紅

大宝殿南斜面や本殿透塀西側(参集殿控室北側)などでご覧になれます。

秋海棠(しゅうかいどう)

シユウカイドウ科 多年草

ペゴニアの一種で、半日蔭のやや湿った所を好む宿根草。草丈約六十cm。八、十月、長い花柄に小さな淡紅色の花をつけます。花言葉は片思い。縁結びのご神木である「ひょうの木」(参集殿裏側)にあやかるかのように、周りに可憐な姿をみせます。



秋海棠

花梨(かりん)

バラ科ボケ属 落葉高木

五月頃、大宝殿下や参集殿裏側に直径約三cmの淡紅色の五弁花が咲き、秋には、長さ約十cmの楕円形の果実が黄色く熟します。果実は喉によいといわれ、砂糖漬や果実酒に用いられ、材は床柱等に利用されます。家や金を「借りん」陽の木といわれています。



花梨

材は床柱等に利用されます。家や金を「借りん」陽の木といわれています。

巫女さんの想い

今年の夏は猛暑・激暑といわれ、着物をつけていると一層暑く感じられます。夏バテにならないよう、健康管理に留意しています。(一)

編集後記

○「玉垂」第三号をお届け致します。連日厳しい暑さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。当地方は例年より雨が少なく、このままでは水不足が心配です。神社の山も乾燥して、宮川の水量も激減してきました。今秋の紅葉はいかがでしょうか。

○今号の特別寄稿は元静岡県柑橘試験場技官の竹田康治様に御寄稿戴きました。竹田先生の「柑橘」に対する情熱には感じられます。どうぞ御味読ください。

○敬神婦人会・小池まさ子会長より「研修旅行」の御寄稿を戴きました。会員の皆様、長い道中でお疲れ様でした。

表紙写真について

平成十三年七月二十六日午後五時、大型クレーン車の先端から御社殿を撮影致しました。地上四十メートルもあり、必死のカメラワークでした。

平成十三年八月十五日

「玉垂」(たまたれ) 第三号

発行 小國神社社務所

郵便番号 四三七七〇二二六

住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一

電話番号 〇五三八(八九) 七三〇二一

FAX 〇五三八(八九) 七三六七

印刷 (有)デザインオフィス エム・エス・シー